

[研究報告]

ファシリテーションの基礎を学ぶための解説動画の作成

田畑 忍

要 約

グループ学習は比較的講義に取り入れやすいものである。しかし、課題を与えてディスカッションをさせるだけでは十分な成果を期待できない。教員による適切な指導が必要である。また、ディスカッションの進め方などについてのファシリテーションが重要である。一般的に、ファシリテーションを行うファシリテーターの育成は容易ではないと言われている。本研究では、グループ学習に入れることにより、議論の活性化が期待できるファシリテーターを育成するため、ファシリテーションの基礎を学ぶための動画を作成した。作成した解説動画は反転授業での利用を考えて設計しており、授業中のワークについて指示しているものもある。

キーワード：グループ学習，ファシリテーション，ファシリテーター，反転授業

I. はじめに

学生の積極的な授業参加を促すため、授業展開の中にグループ学習を取り入れることは多い。しかしながら、課題を与えてグループでディスカッションをさせるだけでは十分な成果を期待できない。「目的を持って取り入れること」「適切な指導を行うこと」「他の学習形態と組み合わせること」など、教員による適切な指導がグループ学習には必要である¹⁾。グループ学習には、「学習への意欲を高める」「コミュニケーション能力の育成が図られる」などのメリットがある反面、「できる人だけで進んでしまう」「参加しない人への不満が高まる」「消極的な人は参加しにくい」「意図した教育目標に達しない可能性がある」などのデメリットも指摘されている。

筆者は昨年度、グループ学習における議論を活性化させることを目的とし、限定的な役割を与えたファシリテーターをグループ学習に入れる試みを行った²⁾。ファシリテーターとは、ファシリテーションを行う人のことである。ファシリテーションとは、人々の活動が容易にできるように支援し、うまくことが運ぶよう舵取りをすることである。集団による問題解決、アイデア創造、教育、学習など、あらゆる知識創造活動を支援し促進していく働きを意味する³⁾。ファシリテーターはグループ学習などの活動においてチームワークを引き出し、そのチームの成果

が最大になるように支援する。ファシリテーターには「場をデザインするスキル」や「対人関係のスキル」、「構造化のスキル」、「合意形成のスキル」が求められる。これらのスキルのうち、筆者が昨年度行った試みでは、「討論の進み方に責任を持つ」「話しやすい雰囲気をつくる」「まんべんなく多様な意見を引き出す」「話が逸れた時には話を戻す」「(それまでの議論の結果を踏まえて) 議論を深めるための意見や疑問を言う」「議論を取束に導く」という具体的な6つの役割のみをファシリテーターに与えた。これは、ファシリテーターの訓練をせずに、ファシリテーションの効果をグループ学習に取り入れたいと考えたためである。

授業実践の結果、学生が作成した発表資料に出現したキーワード数が、ファシリテーターのいないグループ学習時の発表資料のキーワード数と比べて有意に多くなるという結果を得た。また、ファシリテーターをグループ学習に入れることにより、学生からは「議論がスムーズに進んだ」「理解が深まった」「議論が流れるように進み、振り返りもできる」「ファシリテーターの介入が議論を活性化させるために必要だと感じた」など肯定的な意見を多く得ることができた。しかしながら、「ファシリテーターとリーダーの役割分担が難しい」「ファシリテーターの役割が少しあやふやだった」「ファシリテーションの技術を使った議論の効果がいまいちわからない」などといった意見も聞かれた。

II. 本研究の目的

上記のとおり、ファシリテーターをグループ学習に入れることにより、議論が活性化する可能性が高い。実際、大学の授業の中でファシリテーションを学ばせるところが増えつつある⁴⁾。小中高等学校の教員にとって、ファシリテーションは身に付けるべきスキルのひとつであると述べるものもあり⁵⁾、将来教員を目指す学生にファシリテーションを経験させることに意義はあると考えられる。しかしながら、一般的にファシリテーターの育成は難しく、時間も必要であると言われている。また、指導する教員自身がファシリテーションについて経験が無いといったケースもある。そのような場合は、ファシリテーションの効果をグループ学習に取り入れることは難しいと考えられる。

そこで本研究では、ファシリテーションの基礎を学ぶための動画を作成する。これにより、育成が難しいとされるファシリテーターを大学の授業のグループ学習に入れやすくする。

III. 作成した解説動画

以下では、本研究で作成した4つの解説動画についてその内容を述べる。作成した解説動画は、反転授業の動画として授業前に学生に確認させることを考えている。したがって、授業中に行うワークについて説明している動画もある。反転授業を考えたのは、ワークの時間を十分に確保したいなどの理由からである。スライドの内容については、ファシリテーションに関す

る著書（堀⁶⁾⁷⁾、森⁸⁾、中野他⁹⁾、加藤他¹⁰⁾など）を参考に作成した。また、解説動画は、Microsoft社製のPowerPointで作成した解説スライドなどを示しながら、口頭で説明しているパソコン画面をビデオキャプチャソフト（ここでは、Bandicam¹¹⁾を利用して音声と共にキャプチャしたものである。キャプチャした解説動画は、動画編集ソフト（ここでは、Microsoft Liveムービーメーカー¹²⁾を利用して）で編集した。編集した動画はe-EducationシステムBlackboard¹³⁾などでの利用を考え、動画変換ソフト（ここでは、GOM Encoder¹⁴⁾を利用して）でMP4に変換した。

なお、今回作成した解説動画はファシリテーションの基礎を学ぶための動画の一部であり、「場をデザインするスキル」や「合意形成のスキル」などについては順次、追加する予定である。

1. ファシリテーション全般に関する解説動画

ファシリテーションやファシリテーターという用語を初めて聞く学生も多いと考えられる。そこで、まずはファシリテーションの全体像を掴みやすくするための解説動画を作成した。「ファシリテーション全般に関する解説動画」では、まずは実際のグループ学習の写真を提示しながらファシリテーターの役割について説明している（図1）。ファシリテーターに求められる4つのスキルの説明では図を示しながら関係性を説明し（図2）、具体的な例も示している（図3）。グループ学習のメリットやデメリット、グループ学習におけるメンバーの主な役割についても触れている。「ファシリテーション全般に関する解説動画」の時間は10分程度である。なお、この解説動画では授業中のワークを課していない。



図1 「ファシリテーション全般に関する解説動画」の例

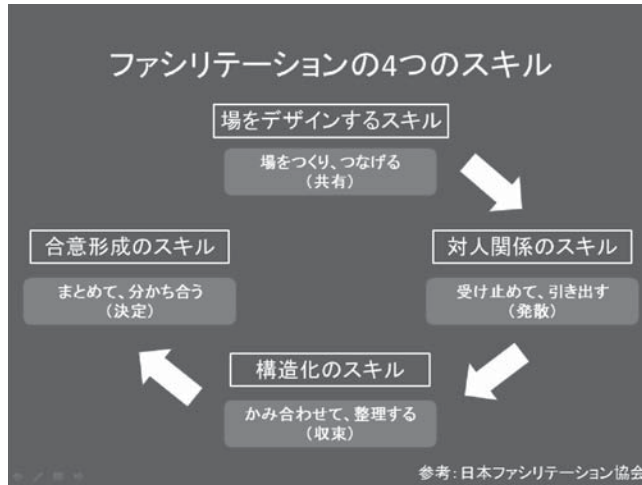


図2 ファシリテーションの4つのスキルの関係性を説明する際のスライド

図3 ファシリテーションの4つのスキルの具体例を説明する際のスライド

2. 傾聴と復唱に関する解説動画

傾聴と復唱は、ファシリテーターに求められるスキルのうち、「対人関係のスキル」に含まれる。傾聴と復唱により、ファシリテーターはグループの中に話しやすい雰囲気をつくる。今回、「傾聴と復唱に関する解説動画」を作成したのは、ファシリテーターに求められる要素のうち最も重要なもののひとつだと考えたためである。実際、筆者が行ったファシリテーションに関するアンケート調査では、傾聴と復唱を学ぶことへの肯定的な回答が多く見られた。傾聴の説明では、以下に示すような内容をスライドで示しながら口頭で補足説明をしている。なお、解説動画には、傾聴と復唱に関するワークを実際にしている様子を撮った動画も含まれている。

- 傾聴は2つのレベルで集中して聴く。
 - ・ 発言内容そのもの。
 - ・ 発言の背後に隠れているもの（感情、心理的欲求、ものの考え方、参加意識など）。
- 非言語メッセージも読み取る。
 - ・ 口調（抑揚など）から読み取る。
 - ・ 表情（目線・顔色など）から読み取る。
 - ・ 態度（姿勢・腕組みなど）から読み取る。
- 話に興味を持って、わかろうと思って聴く。
- リアクションは大きく（ただし、大きすぎないように）。
- 自分からも、聴いているというシグナルを送る。
 - ・ 適切な視線合わせ。
 - ・ うなずき。
 - ・ あいづち。
- 判断抜きで理解しようとする。
 - ・ 内容を評価しない。
 - ・ 先入観を持って、勝手に解釈しない。

なお、あいづちについては、「なるほど」「そうなんですか」などのように具体例を示して説明している（図4）。

復唱の説明では、以下に示すような内容をスライドで示しながら口頭で補足説明をしている。

- 相手の言ったことを、自分でもう一度口にするのが復唱です。
- 話の内容を確認するだけでなく、「聴き手」と「話し手」の双方の理解を深める効果があります。



図4 「傾聴・復唱」に関する解説動画」の例

- さらに、相手を承認し、親和的なメッセージを伝える働きがあります。
- 「オウム返し」が基本になりますが、そればかりだと話し手は、「表面的に聞いているな……」とってしまうかもしれません。
 - ・ 語尾を繰り返す……「○○だと思うんですね」「あ～、○○ですか……」など。
 - ・ キーワードを繰り返す……「○○ですね」など。
 - ・ 自分の言葉で言い換える……適度に要約する / 「○○と解釈しましたけど良いですか」など。

「傾聴と復唱に関する解説動画」では上記の解説の他に、授業中に行うワークの説明を入れている。ワークはペアで行う。対人関係のスキルの傾聴と復唱を意識しながら、テーマに沿って「話し役」と「聴き役」になってワークをする。また、振り返りについても指示している。振り返りでは、「話したいことがしっかり話せたか」「話しやすい雰囲気であったか」「聴き手のどこが良かったか」「あらためて、聴く時のポイントは何か？」など8項目について話し合うように指示している。「傾聴と復唱に関する解説動画」の時間も10分程度である。

3. 質問に関する解説動画

質問も、ファシリテーターに求められるスキルの「対人関係のスキル」に含まれる。質問により、ファシリテーターはメンバーの話や発想を掘り下げたりする。「質問に関する解説動画」では、以下に示すような内容をスライドで示しながら口頭で補足説明をしている。スライドでは、図5に示すように、オープン・クエスチョンの具体例も説明している。なお、「質問に関する解説動画」にも、実際にワークをしている様子を撮った動画が含まれている。

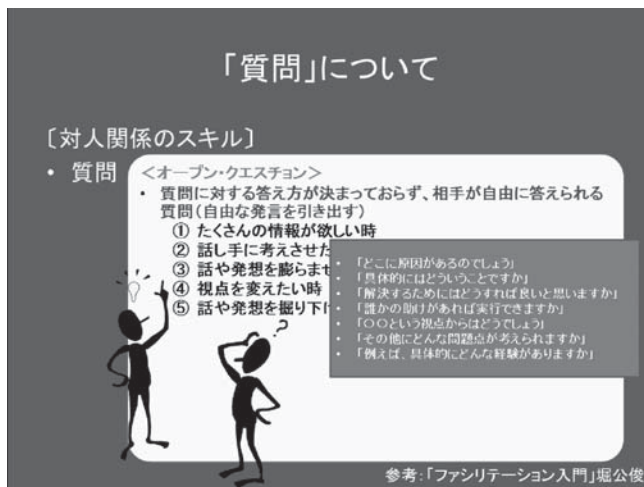


図5 「質問に関する解説動画」の例

〈オープン・クエスチョン〉

- 質問に対する答え方が決まっておらず、相手が自由に答えられる質問（自由な発言を引き出す）。
 - ・ たくさんの情報が欲しい時。
 - ・ 話し手に考えさせたい時。
 - ・ 話や発想を膨らませたい時。
 - ・ 視点を変えたい時。

〈クローズド・クエスチョン〉

- 「はい・いいえ」など、相手の答え方が限られている質問（ポイントを絞り込む）。
 - ・ 答えや論点を絞り込む時。
 - ・ あいまいな発言のポイントを絞り込む時。
 - ・ 決断を迫る時。
 - ・ 理解・合意を確かめたい時。

「質問に関する解説動画」にも、授業中に行うワークの説明を入れている。傾聴と復唱、質問を意識しながら、与えるテーマに沿って「話し役」と「聴き役」にわかれてワークをする。また、振り返りについては「傾聴と復唱に関する解説動画」のワーク時の8項目に加えて、「オープン・クエスチョンとクローズド・クエスチョンの使い方はうまくいったか」「オープン・クエスチョンとクローズド・クエスチョンをどのように使っていくとよさそうか」などについて振り返るように指示している。「質問に関する解説動画」の時間は8分程度である。

4. ファシリテーション・グラフィックに関する解説動画

「構造化のスキル」では、「要点を見つけること」「関係を見つけること」などが求められる。これらを表現する方法として、議論を描くこと（ファシリテーション・グラフィック：以下、FG）がファシリテーターには求められる。「FGに関する解説動画」では、FGにおける大切な4つのポイント（「発言を要約する（図6）」「議論のポイントを強調する」「ポイント同士の関係を示す（図7）」「図解ツールを使って整理すること」）について詳しく説明している。以下は、FGの目的を説明する際の内容の一部とスライドの一例（図8）である。

- 議論を描く目的は、話し合いの「プロセスの共有」と「対等な参加」をなすためです！
- 話し合いの「プロセスを共有」する。
 - ・ 議論の全体像やポイントを提示する。
 - ・ 議論のポイントに意識を集中させる。
 - ・ 話し合いの共通の記録として残る。
- 「対等な参加」を促進する。
 - ・ 発言を定着させて安心感を与える。

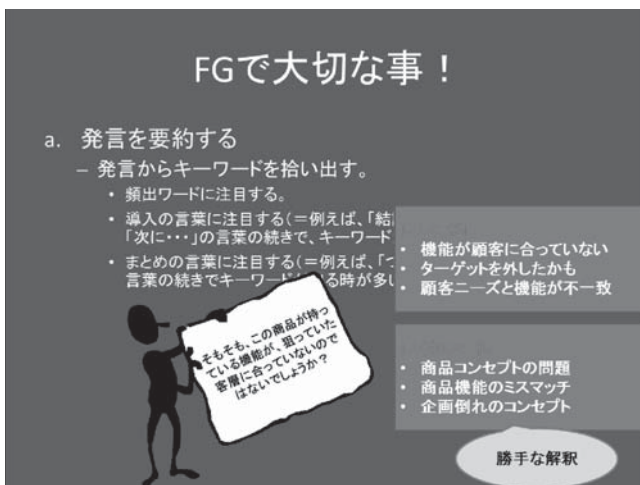


図6 「発言を要約する」ことを説明する際のスライド

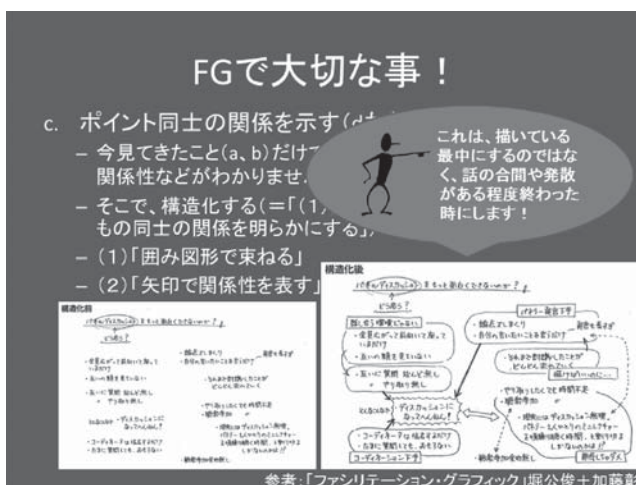


図7 「ポイント同士の関係を示す」ことを説明する際のスライド

- ・ 発言を発言者から切り離す。
- ・ 発想を広げて話し合いを楽しくする。

「FGに関する解説動画」にも、授業中に行うワークの説明を入れている。ここでは4人グループになり、「話し役(2人)」と「描く役(2人:以下、グラフィッカー)」にわかれてワークをする。グラフィッカーは、FGにおける大切な4つのポイントを意識しながら、話し役の話をする。グラフィッカーは、FGにおける大切な4つのポイントを意識しながら、話し役の話をする。話し役はテーマに沿って5分間話をする。振り返りでは、「どのような点を意識しながら描いたか」「話し手は、描かれたものを見てどう思ったか」「改善点はどこか」などついて振り返るように指示している。「FGに関する解説動画」の時間は10分程度である。

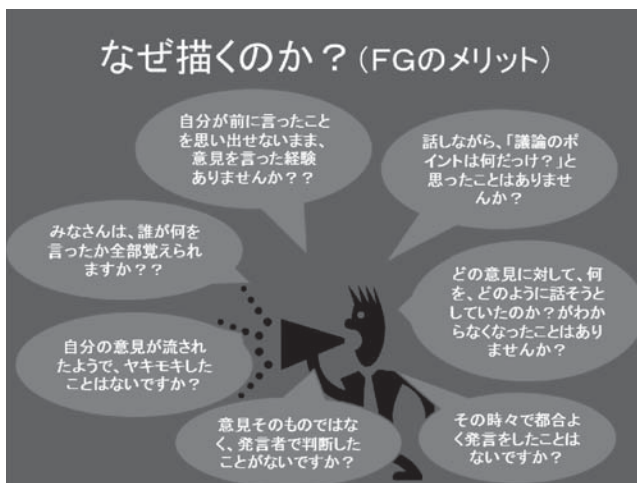


図8 ファシリテーション・グラフィックの目的を説明する際のスライドの例

IV. まとめと今後の課題

グループ学習に入れることにより、議論が活性化するなどの効果が期待できるファシリテーターを育成するため、ファシリテーションの基礎を学ぶ動画を作成した。これにより、育成が難しいとされるファシリテーターを大学の授業のグループ学習に入れやすくしようとした。作成した動画は反転授業での利用を考え設計した。解説動画には、授業中に行うワークについて指示しているものもある。

本研究では、「ファシリテーション全般に関する動画」と「対人関係のスキルに関する動画(2種類)」、「構造化のスキルに関する動画」の4つを作成した。しかしながら、「場をデザインするスキル」「合意形成のスキル」の解説動画については作成途中である。これらについては順次作成し、今回作成した解説動画と合わせて実際の授業の場で利用することにより、その効果を検証したいと考えている。

なお、本研究で作成している解説動画については、学生に配布する資料とともに一般公開を予定している。

参考文献

- 1) 島根県教育センター浜田教育センター「授業づくりQ&A～『よい授業』を目指して」：http://www.pref.shimane.lg.jp/hamada_ec/kenkyu/kiyou_houkoku/jyugyou.html, 2011年(閲覧日:2014年12月8日)
- 2) 田畑忍「グループ学習における議論を促すための試み」, 玉川大学教師教育リサーチセンター年報第4号, 2013, pp111-119
- 3) 日本ファシリテーション協会：<https://www.faj.or.jp/> (閲覧日:2014年12月8日)

- 4) 日本ファシリテーション白書チーム「ファシリテーション白書2014」, 日本ファシリテーション協会, 2014
- 5) ちょんせいこ, 『学校が元気になるファシリテーター入門講座 15日で学ぶスキルとマインド』, 解放出版社, 2009
- 6) 堀公俊, 『ファシリテーション入門』, 日本経済新聞出版社, 2004
- 7) 堀公俊, 『問題解決ファシリテーター』, 東洋経済, 2003
- 8) 森時彦, 『ファシリテーター養成講座』, ダイヤモンド社, 2007
- 9) 中野民夫・森雅浩, 他, 『ファシリテーション 実践から学ぶスキルとこころ』, 岩波出版, 2009
- 10) 加藤彰・堀公俊, 『ファシリテーション・グラフィック 議論を「見える化」する技法』, 日本経済新聞出版社, 2006
- 11) Bandicam : <http://www.gomplayer.jp/bandicam/> (閲覧日: 2014年12月25日)
- 12) Microsoftムービーメーカー : <http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows-live/movie-maker> (閲覧日: 2014年12月25日)
- 13) Blackboard@Tamagawa : https://bb.tamagawa.ac.jp/webapps/portal/execute/tabs/tabAction?tab_tab_group_id=20_1 (閲覧日: 2014年12月25日)
- 14) GOM Encoder : <http://www.gomplayer.jp/encoder/> (閲覧日: 2014年12月25日)

Making Videos to Learn the Basis of Facilitation

Shinobu TABATA

Abstract

Group learning is widely used in a classroom. But it is not enough to give students a topic for discussion. Students need teacher's help. Also, facilitation is important for group learning. Generally, it is difficult to cultivate human resources capable of facilitation. In this study, we make videos to learn the basis of facilitation. We use these videos in the flipped classroom. Some videos order students to do work.

Keywords: group learning, facilitation, facilitator, flipped classroom